

中学校 美術科 部会

部会長 川崎中学校 校長 村上きぬよ
実践者 添田中学校 教諭 其上 利幸

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高めた生徒を育てる学習指導

～美術科での言語活動を効果的に取り入れた授業展開を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会的背景から

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代と言われている。このような社会を生き抜く生徒たちに「生きる力」を育成することは今後ますます重要になってくる。今回改訂された学習指導要領においても、「確かな学力」「豊かな人間性」「心や健やかな体の育成」の調和を重視する「生きる力」の理念は継続されている。その中でも、「確かな学力」の充実において、習得した知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力が重視され、その手段として各教科で「言語活動の充実」を図ることを通して、思考力、判断力、表現力を身につけさせることが強く求められている。

(2) 本校の教育目標から

本校の教育目標では、「心豊かで逞しく確かな学力を身に付けた未来を志向する生徒の育成」を目指して教育活動を展開している。そのために目指す生徒像を、次のように定めている。

- ・ 確かな学力を身につけ、未来を志向する生徒（知）
- ・ 心豊かで、郷土を愛し、人権を尊重する生徒（徳）
- ・ 逞しい体と正しい判断力が身についた生徒（体）

これは、21世紀を生きていくのに必要な「生きる力」を身につけた生徒の姿を示しており、このような生徒を育てるためには、思考力、判断力、表現力を高めていくことが重要である。本校の生徒の実態は平成24年度の全国学力・学習状況調査における問題別評価結果からも「活用」に関する問題の正答率が全国平均と比べても極めて低く、知識・技能を活用して問題を解決する能力が低く、思考力、判断力、表現力の育成に課題があることが分かった。さらに生徒質問用紙の結果からも、授業の中で言語活動の場面を設定しているが、生徒が話したり書いたりといった言語活動の目的や教師の働きかけが機能していないという課題が見えてきた。以上のことから美術科の思考力、判断力、表現力を高めるために、知識・技能を活用する課題解決過程の中に言語活動を位置づけ、意図的に展開することの必要性を強く感じ、本主題を設定した。

3 主題の意味

(1) 研究主題「思考力・判断力・表現力を高めた生徒を育てる学習指導」について

めざす生徒の姿は、教師の意図的、計画的な指導のもと、課題解決や目標達成に前向きに立ち向かいながらその過程で知識や技能を習得したり、思考や表現と関係づけて思考を深めたりして、思考や表現を質的に高める生徒である。

具体的には、次のような生徒の姿である。

- 課題解決や目標達成に向けて、既習の学習内容をもとに関係づけながら意欲的に追求する生徒
- 見通しを持って課題解決の過程や自分の考えを適切に表現する生徒

思考力・判断力・表現力を高めた生徒を育成するために、内容を生徒の心身の発達に応じ、教科の目標や特性、指導内容と方法との関連においた学習指導のことである。

(2) 副主題「美術科での言語活動を効果的に取り入れた授業展開を通して」について

①言語とは

心の一部として人間に備わった生得的な能力であり、文法規則の一定の順序に従って言語要素を並べることにより意味を表現し伝達したり、聴覚や視覚でそれを受信して物事を考え理解したりできるシステムである。言語は人間一人ひとりに個別に備わった能力である。一方、特定の共同体の中で共通化され、その共同体の目的達成や集団維持のために運用されている思考や伝達に不可欠な文化でもある。

②言語活動とは

思考を核とした言語の機能を発揮し、学習における価値的な観点を内包しながら多様な様式で行う「話す・聞く・書く・読む」活動である。言語様式を次のように考える。

〔交流〕 共通の話題について、お互いの考えや認識の違いをやりとりし、考えを深めたり新たな考えを導きだしたりすること。

〔討論〕 ある主題について、異なる立場や考えについて、違いを大事にしながらかく多くの考えを関係づけていくこと。

〔説明〕 聞き手に理解や納得を促すために、分かったことや考えたことやその過程などを、簡潔に書いたり話したりすること。

〔報告〕 事実や結果、感じたことなどを相手に伝えること。

〔記録〕 事実や結果などについて、形式を整えて書き記すこと。

〔整理〕 たくさんの情報の中から必要な情報を取捨選択したり、自分の考えを分類したり順序づけたりして、はっきりさせること。

〔感想〕 ある物事に対して、心に感じ思うことを書いたり話したりすること。

〔批評〕 物事を分析的に見て考察したり評価したりすること。

③美術科での言語活動を効果的に取り入れた授業展開とは

教科において思考や表現を高めるために、言語活動を組み合わせて単元構成の中に位置づけていくようにする。位置づけが決まったら、1 単位時間の言語活動を考えて行き、その際に言語活動を「観点」「様式」「機能」の3つの要素から構成し、指導のポイントとすることで、思考力・判断力・表現力を高めた生徒を育成させると考える。

4 研究の目的

思考力・判断力・表現力を高めた生徒を育てるために、言語活動を組み入れた授業展開の在り方を究明するとともに、単元（題材）や1 単位時間における構成モデルを作成する。

5 研究仮説

美術科の特質に応じて観点、様式から工夫した言語活動を単元（題材）構成の1 単位時間の中に効果的に位置づけ、効果的に取り入れる工夫を積み重ねていけば、思考力・判断力・表現力を高めた生徒が育つであろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 題材 「工芸（ペーパーナイフの制作）」

(2) 題材の目標及び指導計画

題 材		「工芸（ペーパーナイフの制作）」	総時数	1 2 時間	時期	二学期
題材の目標		<ul style="list-style-type: none"> ○身近で使うペーパーナイフを作ることに関心を持ち、完成まで計画的に制作することができる。 (関心・意欲・態度) ○材料の特性を生かしながら、美しさと使いやすさを考えたペーパーナイフのデザインをすることができる。 (発想や構想の能力) ○木材に適した加工方法を用い、安全で効果的な用具の使い方を工夫し計画的に制作することができる。 (創造的な技能) ○自分や友達の作品から機能と美の調和を感じ取り、工芸の魅力について味わうことができる。 (鑑賞の能力) 				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)		
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品から機能と美の調和を感じ取り、制作に関心を持たせる。 ・ 木材の特性を理解しながら、安全で効果的な用具の使い方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品の鑑賞。 (感想・批評) ・ 材料や用具の特質について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に作った作品を見せ、制作意欲を喚起させる。 ・ 用具の使い方を実演し、イメージを持たせると同時に安全面について注意する。 		
2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しさと使いやすさをかねた作品をデザインする。 ・ 試作品で加工方法と制作の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアスケッチをする。 (記録・整理) ・ 試作品をつくる。 (整理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能性と装飾性を考えながらデザインするように工夫させる。 ・ 加工しやすい素材を使って実物大の試作品をつくらせる。 		
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の試作品から機能と美の調和を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試作品の鑑賞 (批評・整理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の評価をもとに再度構想を練る。 		
4	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木材に適した加工方法を用い、安全で効果的な用具の使い方を工夫し計画的に制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作 下絵と切断 押し切りと引き切り 素地磨き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糸のこぎりの使い方 に注意する ・ 切り出しナイフの 使い方を指導する。 (取り扱い方を含む) ・ 面取りと削り取り で成形させる。 (荒削り) ・ 木工ヤスリを使っ て丁寧に作業をさ せる。 		

		<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーナイフを機能的にしかも美しく作ることに関心を持ち、完成まで計画的にしかも安全に制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げ 刃研ぎ ニス塗り 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙ヤスリを使って全体を仕上げる。 ・試し切りをさせながら切れ味をよくさせる。 ・完成品を参考にして丁寧な作業をさせる。
5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の作品から機能と美の調和を感じ取り、工芸の魅力について味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品鑑賞 (感想・批評) ・自己評価 (感想・批評) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を鑑賞しあい機能性と装飾性について考えさせる ・制作を振り返らせながら感想をまとめさせる。

7 指導の実際

(1) 主 眼

○自他の試作品をもとに、鑑賞し合うことで、自分のデザインや構想をより深めることができるようになる。

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、木材や用具の特色を踏まえて、ペーパーナイフに求められる機能的な形と自分の美意識に合うデザインを考え、試作品として形に表してきた。

本時では、今までの作品に対する思いや考えをワークシートに言葉で表すことで自分の意図について再確認させ、次に班員同士でお互いの試作品について機能的な面や装飾性について評価し合うことで見方を広げさせたい。そして他人の作品を鑑賞することで気付いたり、考え直した点をもとに構想に修正を加え、アイデアスケッチを練り直すことをねらいとする。

(3) 準 備

生徒：試作品、筆記用具

教師：ワークシート、

(4) 展 開

配時	過程	学 習 活 動	指導上の留意点 (教師の指導・援助)	評 価
10分	つ か む	<p>1 前時学習を振り返り、本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 前時学習を想起する。</p> <p>(2) 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 試作品を鑑賞し合ってよりよいデザインを追求しよう。</p> </div>	<p>○ペーパーナイフに求められる機能的な条件を思い出させる。</p> <p>○本時の作業が意欲的に行えるようにめあてを掲示する。</p>	

20分	調べる	<p>2 自分の思いや考えを発表する。</p> <p>(1) ワークシートに自分の思いや考えを書き出す。</p> <p>※数名の生徒が、文章で表すことに戸惑うはずである。</p> <p>(2) 自分の思いや考えを発表する。</p> <p>※口答による発表を嫌がる傾向がある。</p> <p>3 お互いの試作品を見ながら評価し合う。</p>	<p>○使いやすいように工夫した点や装飾的にこだわった点をあげさせる。</p> <p>※机間指導で、助言を行う。</p> <p>使いやすさ (長さ、刃の形、柄の大きさ)</p> <p>装飾型 (ナイフ、流線、擬似、柄)</p> <p>○机を班にさせて、お互いの意図を発表させる。</p> <p>※口答での発表が進まない場合にはワークシートを回し見するように投げかける。</p> <p>○他人の試作品を項目ごとに評価し、ワークシートに記入させる。</p> <p>項目、長さや形 持ちやすさ、等</p>	<p>※作り手の意図に関心を持ち感じ取ろうとしている。</p> <p>※機能や装飾の良さを感じ取って評価をしている。</p>
15分	深める	<p>4 自分の作品を評価し、その評価から改善点を見つけ、アイデアスケッチの修正を行う。</p> <p>※他の生徒の模倣や写しになることも考えられる。</p>	<p>○作品鑑賞から気付いたり、考え直した点をアイデアスケッチ面に修正をさせ改善させる。</p> <p>※試作品をもとに改善することをおさえる。</p>	<p>※豊かな発想の努力をしている</p>
5分	まとめ	<p>5 本時学習のまとめをする。</p> <p>(1)まとめ 試作品を鑑賞し合って、機能性や装飾性の面からデザインを改善することができたか？</p> <p>(2)次時の学習について考える。</p>	<p>○鑑賞することで、よりよいデザインへと変わっていったかを振り返らせる。</p> <p>○次回は板にデザインを書き込み糸のこぎりを使って制作に入ることをつげ、意欲がつながるように説明をする。</p>	

8 研究のまとめ

本題材の中にあるアイデアスケッチや試作品を使った思考の過程では、言語活動を用いることでめあてや主題に照らした表現や制作の活動を深めることができる。さらには鑑賞や評価では感想を发表或し作品を批評したりすることで、機能性や装飾性を客観的に考察し評価する判断力を養うことになると考えられる。そのためには普段の授業から自分の考えを表現する手段や方法を身に付けさせるとともに、生徒同士がいかにお互いの思考を読み取ることが自己の表現を高めさせることにつながるかということを感じさせる必要がある。

9 成果と今後の課題

生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、言語活動を一つの手段として位置づけ学習活動を展開した。美術科の学習指導において、題材指導計画や1単位時間における言語活動を取り入れた学習過程の構成を通して、生徒自身の思考を働かせ、課題解決や目的達成へと支援する授業づくりに取り組む中で、生徒の学習に対する態度も自他の意見や考えを参考にしながら、発想や構想を膨らませたり、よりよい作品を完成させようとする姿へと変容が見られた。また、作品完成後の自己評価では、「自分の思いや考えが表現することができた。」や「友達の作品や意見が参考になった。」という感想が多くあげられた。このことから本研究を通して、生徒の思考力・判断力・表現力の育成のためには、言語活動が有効であることが分かった。

本研究は、生徒の思考力・判断力・表現力を高める学習指導の在り方を追求する予定であったが、現時点では言語活動を効果的に取り入れるための工夫だけとなっている。思考力・判断力・表現力の育成には長期的に取り組むと様々な単元（題材）における言語活動の活用が必要であると考えられる。